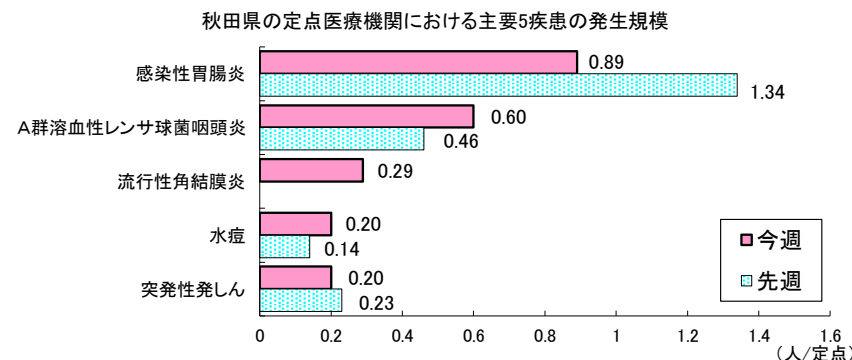




【第45週の発生動向】

<定点把握対象疾患(週報)・前週比>

1. 感染性胃腸炎は、県全体で34%減少しています。保健所別では、北秋田で増加、大館、横手で同規模、秋田市、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、湯沢で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で1.3倍に増加しています。保健所別では、秋田市、由利本荘、大仙で増加、大館、秋田中央、湯沢で同規模、横手で減少しています。
3. 流行性角結膜炎は、県全体で増加しています。保健所別では、秋田市で増加しています。



発生報告

<五類定点対象疾患(週報)>

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減			
RSウイルス感染症																														
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.09	0.11	↗	0.29		↘		0.50	↗											0.25	↗				0.25	0.25				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	0.60	↗	0.43	1.00	↗	0.25	0.25					1.25	1.25		0.25	0.50	↗	0.50	0.75	↗	0.33		↘	0.75	0.75				
感染性胃腸炎	1.34	0.89	↘	1.00	0.86	↘	0.50	0.50			0.50	↗	3.33	1.33	↘	1.50	0.75	↘	2.75	2.50	↘	0.75	0.50	↘	0.33	0.33		1.75	0.50	↘
水痘	0.14	0.20	↗	0.29	0.29		0.50	0.75	↗	0.50	0.50			0.33	↗															
手足口病	0.03		↘										0.33		↘															
伝染性紅斑		0.03	↗					0.25	↗																					
突発性発しん	0.23	0.20	↘	0.43	0.29	↘	0.75	0.75			0.50	↗	0.33		↘									0.33		↘		0.25	↗	
ヘルパンギーナ																														
流行性耳下腺炎	0.03	0.03												0.33	↗				0.25		↘									
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*									*	*			
流行性角結膜炎		0.29	↗		0.67	↗				*	*		*	*		*	*									*	*			
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎		0.13	↗													*	*						1.00	↗						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。  
「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、秋田中央保健所管内から1人、報告されました。  
・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田市保健所管内から2人、由利本荘保健所管内から27人、報告されました。  
・五類感染症のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が秋田市保健所管内から1人、侵襲性肺炎球菌感染症が秋田市保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から1人、梅毒が秋田市保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から1人、報告されました。  
・指定感染症の新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から1人、秋田中央保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から2人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-44週 全国	秋田	45週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	14382	78	2
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	1		
	細菌性赤痢	60		
	腸管出血性大腸菌感染症	2707	68	29
	腸チフス	21		
	パラチフス	7		
四類	E型肝炎	370	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	111		
	エキノコックス症	16		
	黄熱			
	オウム病	5		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	15		
	キャサヌル森林病			
	Q熱			
	狂犬病	1		
	コクシジオイデス症	4		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	1		
	重症熱性血小板減少症候群	72		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			

類型	疾患名	(人)		
		1週-44週 全国	秋田	45週 秋田
四類	ダニ媒介脳炎			
	炭疽			
	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	122	8	
	デング熱	42		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニバウイルス感染症			
	日本紅斑熱	400		
	日本脳炎	5		
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	2		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	4		
	マラリア	20		
	野兔病			
ライム病	25			
リッサウイルス感染症				
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	1782	11		
レプトスピラ症	14			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	513		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	207	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1533	14	1
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	29		
	急性脳炎	429	4	
	クリプトスポリジウム症	6		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	124	2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	645	4	
	後天性免疫不全症候群	895	2	
	ジアルジア症	22		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	225		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	13		
	侵襲性肺炎球菌感染症	1346	9	2
	水痘(入院例に限る)	291	8	
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	4782	68	2
	播種性クリプトコックス症	124	1	
破傷風	92	1		
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	113	1		
百日咳	2797	10		
風しん	93			
麻しん	13			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	10			
指定	新型コロナウイルス感染症		63	4

トピック

<カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症について>

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症の報告が、全国で第44週までに1,533人、秋田県内で第45週までに15人ありました。CREは各種の抗菌薬に耐性を示すことが多く、難治性の感染症を起こしやすいため、薬剤耐性菌の中でも特に注意が必要です。

■病原体

腸内細菌科細菌には大腸菌、クレブシエラやエンテロバクターなど私たちの腸内に生息している多くの細菌が含まれます。薬剤耐性のメカニズムにはいくつかありますが、これらの腸内細菌科細菌では表のような薬剤耐性遺伝子を獲得することによって耐性化する場合があります。

■症状

症状は様々で、尿路、呼吸器、手術部位への感染の他、髄膜炎や菌血症といった症状を引き起こします。薬剤耐性菌が健康な人に影響を及ぼすことは多くありませんが、免疫力の低下している患者、外科手術後の患者や抗菌薬を長期にわたって使用している患者では、十分な注意が必要です。

■予防

感染対策としては、日頃から手洗いを徹底するなどの接触感染への対策が重要です。また、間違った抗菌薬の使い方をすると、薬剤耐性菌を増やしてしまう可能性があります。処方された抗菌薬については、医師の指示に従って用法・用量をしっかりと守りましょう。

表 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の主な薬剤耐性遺伝子

薬剤耐性遺伝子の種類	最初に遺伝子が報告された菌種
IMP型	セラチア菌
VIM型	緑膿菌(腸内細菌科細菌ではない)
NDM型	クレブシエラ、大腸菌
KPC型	クレブシエラ
OXA <sub>48</sub> 型	クレブシエラ
GES型	クレブシエラ



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報	警報		対象疾患	注意報	警報	
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		